

第2期

しまね教育 ビジョン21

〔計画期間 平成26年度～平成30年度〕

基本理念

「島根を愛し 世界を志す 心豊かな人づくり」



平成26年7月

島根県教育委員会

計画推進の取組

教育に関わる多様な主体との連携・協力

- 市町村・市町村教育委員会などと連携・協力して、施策の実施に取り組みます。
- 学校・家庭・地域をはじめ、ボランティア・NPO・企業・各種団体などの多様な主体との連携・協力を図り、県民一体となった施策の推進に努めます。

学校・家庭・地域の役割

- 学校** 子どもの発達の段階に応じて、体系的かつ組織的な教育活動を行い、子どもの知・徳・体の調和のとれた能力を育む。
- 家庭** 基本的な生活習慣、人に対する信頼感、他者への思いやりや善悪の判断などを育む。
- 地域** 地域での人との触れ合いや様々な体験の機会を提供することなどにより、子どもの社会性や規範意識などを育む。

計画の周知と県民の意見の把握

- 県民の方々の理解を得るため、県の広報媒体や各種会議等を活用して積極的に情報提供を行い、周知を図ります。
- 学校教職員に対しては、研修などを通じて周知徹底を図ります。
- 県民の方々の意見を的確に把握し、施策への反映を図ります。

計画の進捗状況の点検・評価と計画の見直し

- 地方教育行政の組織及び運営に関する法律の規定に基づく点検・評価や県の行政評価において、毎年、施策の進捗状況を把握し、効果や課題を検証します。
- 計画期間中において、社会・経済情勢の大きな変化や国における教育制度の大幅な改正などが生じた場合は、計画の内容を見直します。

担当 島根県教育庁総務課 TEL.0852-22-5406 FAX.0852-22-5400

島根県教育委員会ホームページに
「第2期しまね教育ビジョン21」全文を掲載しています。

第2期しまね教育ビジョン21

第2期しまね教育ビジョン21を策定しました

- 県教育委員会は、平成16年に策定した「しまね教育ビジョン21」（平成16年度～平成25年度）に続く、今後の本県教育の基本理念や施策の方向性を示す「第2期しまね教育ビジョン21」を策定しました。
- 「第2期しまね教育ビジョン21」の計画期間は、平成26年度から平成30年度までの5年間です。
- 今後、「第2期しまね教育ビジョン21」に基づき、県が推進する教育施策全体の目標や方向性を関係者全員が共有し、個々の施策が一人一人の子どもの確かな力となって実を結ぶように取組を進めていきます。

基本理念

「島根を愛し 世界を志す 心豊かな人づくり」

科学技術の進歩や国際化・情報化の進展、少子化の進行、価値観やライフスタイルの多様化など、社会の急激な変化に伴い、先の見通せない厳しい状況が予想されます。

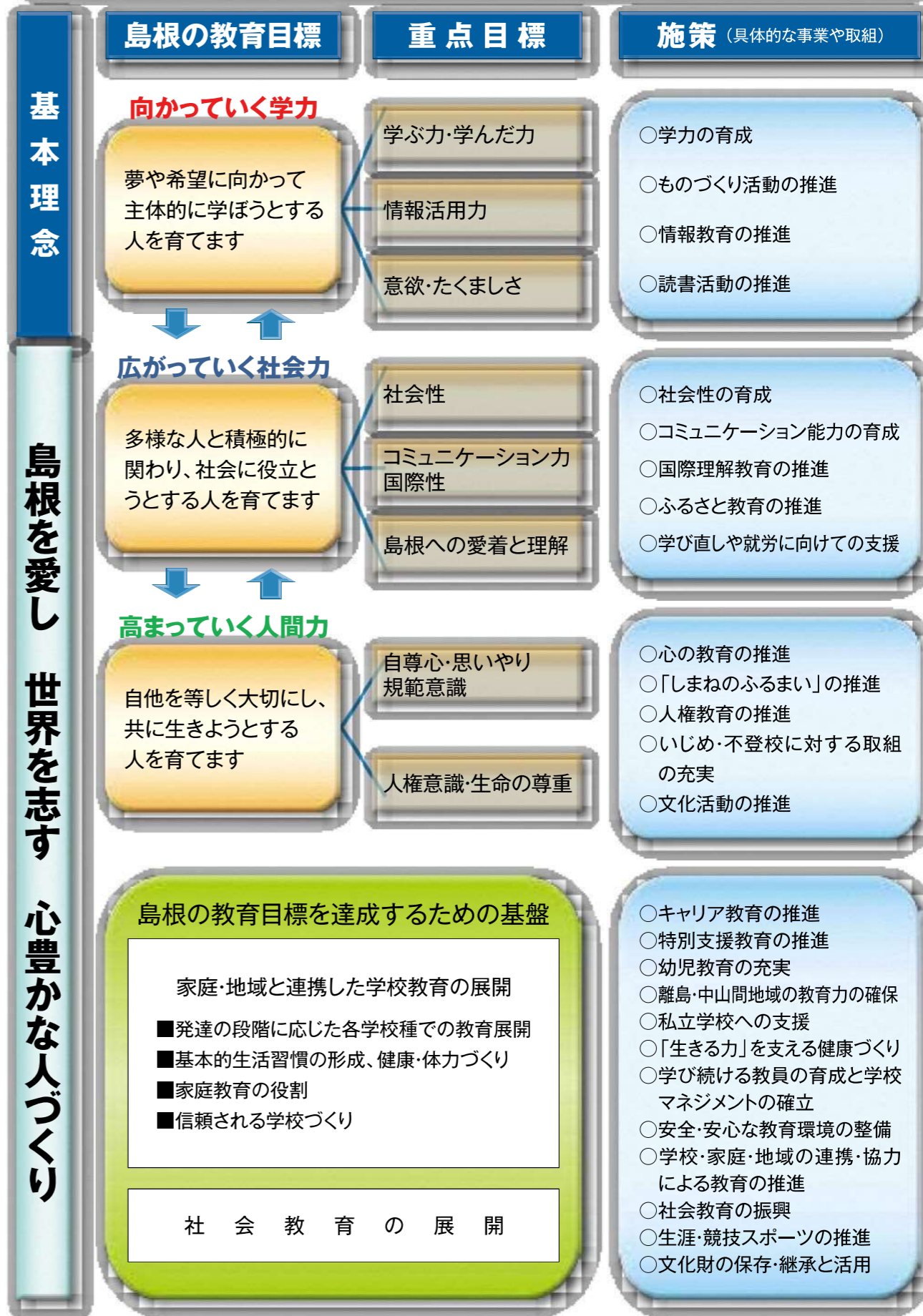
このような時代を生き抜くためには、島根や身近な地域など、ふるさとの自然・歴史・文化・伝統などに対する愛着や誇り、理解を土台に据えることが大切です。

そして、そのような土台の上で、日本や世界を見渡す広い視野を持ち、そうした広い世界全体と自分との関係を意識しながら、高い目標、困難な課題、未知の領域等々の意味を含んだ「世界」に挑戦しようとする意志を持ち、夢や希望・目標に向かって意欲的に進んでいくとともに、社会に能動的に関わる態度や貢献する心を持つことが大事です。

一方で、そうした時代への対応とともに、他人を思いやる心や美しいものに感動する心、生命を尊重する心などの豊かな心は、いかなる時代であっても身に付けることが重要です。

基本理念に込められた意味を、学校・家庭・地域・行政など、教育に関わるすべての人が共有し、相互に連携しながら取り組んでいきます。

第2期しまね教育ビジョン21の全体構造



島根の教育目標・重点目標

1 教育目標 夢や希望に向かって 主体的に学ぼうとする人を育てます

この世界の様々な事象・現象に旺盛な知的関心に向け、主体的に学び続けようとする

向かっていく **学力**

重点目標

○学ぶ力・学んだ力 ○情報活用力 ○意欲・たくましさ

2 教育目標 多様な人と積極的に関わり、 社会に役立とうとする人を育てます

身近な人々との温かな心の交流を基盤としながら、多様な他者との柔軟な交流や積極的な発信力へと展開する

広がっていく **社会力**

重点目標

○社会性 ○コミュニケーション力・国際性 ○島根への愛着と理解

3 教育目標 自他を等しく大切にし、 共に生きようとする人を育てます

生命への畏敬と自他を等しく大切に思う人権意識に根ざし、魅力ある人間として成長しようとする

高まっていく **人間力**

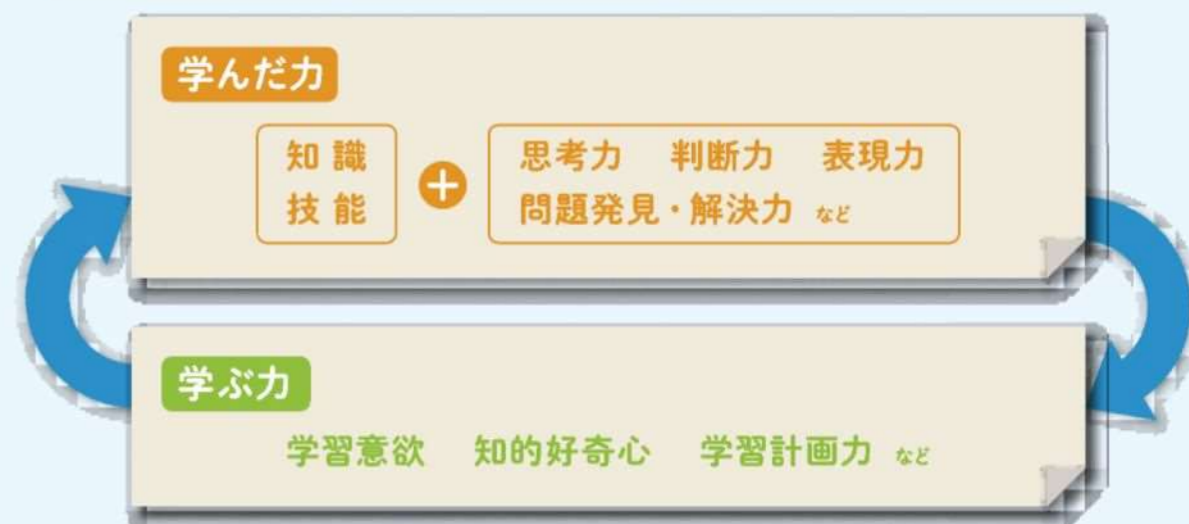
重点目標

○自尊心・思いやり・規範意識 ○人権意識・生命の尊重

- 三つの教育目標は、相互に関連性をもって展開していくべきものです。
 - ・学力の向上は、社会力の広がりや人間力の高まりと結び付いたものでなければ、生きる力になりません。
 - ・人間力が高まることによって、さらなる社会的な関係性の広がり生まれ、より積極的な学びの世界に向かっていこうとする姿勢が育まれます。
- 重点目標は、教育目標を構成する要素であり、教育目標を達成するために具体的に育てていかなければならない能力や態度などを示すものです。

「学力」とは — 学ぶ力・学んだ力 —

学力



- 国際化、情報化の急激な進展など激動する社会を生きるためには、これまでの狭義の学力(知識・技能)だけに頼ることはできません。
- 様々な状況変化に的確な対応がとれるよう、「知識・技能」と「思考力、判断力、表現力、問題発見・解決力など」のいわゆる「学んだ力」に加え、「学習意欲、知的な好奇心、学習計画力など」のいわゆる「学ぶ力」の双方を身に付ける必要があります。
- 知識や技能などを身に付けたり、それらを活用したりする「学んだ力」を高めていくためには、その支えとなる、主体的に学ぼうとしたり、向上しようとする「学ぶ力」を育むことが大切です。
- 「学ぶ力」は生涯にわたって主体的に学び続けようとする原動力となるものであり、「学ぶ力」を育むことで「学んだ力」を向上させ、それが新たなステージの「学ぶ力」を生むという好循環を確立することが重要です。

家庭・地域と連携した学校教育の展開(右図)

- 右図は、就学前から高等学校までの発達の段階における三つの教育目標ごとの要点を学校種別に、いわゆるキャリア教育の視点を取り入れて整理したものです。
- 下段には、学校・家庭・地域が連携して行う「基本的生活習慣の形成、健康・体力づくり」、家庭(保護者)が子どもたちにどのように関わっていくのかという「家庭のかかわり・役割」、学校と家庭を支援していただく地域をそれぞれ表現しています。

家庭・地域と連携した学校教育の展開

島根を愛し 世界を志す 心豊かな人

向かっていく学力・広がっていく社会力・高まっていく人間力

見通す力・やり抜く力・見つめる力 を育てる

創り出す力・切り拓く力 を育てる

かかわる力・自ら学ぼうとする力 を育てる

触れる力・やってみる力 を育てる

就学前

- 身近な環境に好奇心をもって触れてみて、発見を楽しんだり考えたりさせる。
- 絵本や物語などに親しみ、興味をもって聞き、想像する楽しさを味わわせる。
- いろいろな遊びの中で、心を動かすようにさせる。
- 身近な人とのふれあいを深めさせ、思いやりや親しみの気持ちをもたせる。
- 良いことや悪いことがあることに気づき、考えながら行動させる。
- 身近な人の中で、出会いを大切に、豊かな生活体験を行わせる。
- 温かい見守りの中で、自分でできることは自分でしようとする心を育む。
- 友達の間で生活できるようにする。

向かっていく学力

- 身のまわりの生活や地域との関わりを通して知的な好奇心、学ぶ意欲を高める。
- 基礎・基本となる知識や技能の定着を図り、それらを活用して課題を解決するための能力を育む。
- 家庭と連携してそれぞれに合った家庭学習の習慣化を図る。
- 学校図書館や情報機器等を活用し、情報を集める力や読み取る力、適切に活用できる力を育む。
- 様々な実体験を積み重ねて、たくましさ・しなやかさを育む。

広がっていく社会力

- 身近な社会との関わりを通して、自分の夢や希望を膨らませる。
- 身近な地域について、知る、感じる機会を与えることで、関心を高める。
- 身近な地域の教育資源(ひと・もの・こと)に触れることで、愛着を育む。
- 外国語活動等を通して異なる文化に触れさせ、親しみを感じさせる。
- 様々な人との出会いを通して、人との関係を大切にすることを育む。
- 職場見学等を通して、働くことの意義について考えさせる。

高まっていく人間力

- 自分の好きなもの、大切なものを持ち、自分を信じる心を育む。
- 人や自然との関わりの中で、よいところを見つけようとする心を育む。
- 返事やあいさつ、時間や約束を守る等の、基本的なふるまいができるようになる。
- 様々な活動・体験の中で、自分の役割や責任を知り、役立つ喜びや自尊感情を体得させる。
- 自分と友達の違いに気づき、受け止めようとする態度を育てる。

生活習慣・健康・体力

- 食事、排泄などの生活に必要な活動を自分でできるようにさせる。
- いろいろな遊びの中で伸び伸びと十分に体を動かすようにさせる。

生活習慣・健康・体力

- 食事、睡眠、運動などの基本的な生活習慣を定着させる。
- 運動遊びを通して、進んで運動を楽しもうとし、いろいろな運動ができる力を育む。

- しっかり抱き、しっかりほめる。
- 目をしっかり見て話を聞く。
- 早寝早起きなど基本的な習慣づけをする。
- 自然の中で遊ぶなど、本物の体験をさせる。

- しっかりほめ、しっかり諭す(叱る)。
- うなずきながら、話を聞く。
- 自分のことは自分でできるように基本的な生活習慣づくりを促す。
- 自分の良さを知り、その良さを生かすことができるよう励ます。

生活習慣・健康・体力

- 健康状態に関心を持ち、自らの力で基本的な生活習慣を定着させる。
- 運動部活動など様々な経験を通して、運動に親しむ資質を育む。

- しっかりほめ、しっかり諭し(叱り)、励ます。
- 話を真剣に聞き、思いを受け止め、相談に乗る。
- 規律ある、望ましい生活習慣のリズムが確立できるよう促す。
- 自分の良さを生かし、目標に向けて努力できるよう相談に乗り、励ます。

生活習慣・健康・体力

- 社会的自立に向けて、自らの力で健康的な生活習慣を確立させる。
- 運動・スポーツに主体的に取り組むことにより、自らの健康を維持できる実践力を育む。
- 生涯にわたって運動を楽しむ力を育む。

- 最良の理解者として、温かく見守り、支える。
- 人生の先輩として相談に乗り、アドバイスする。
- 自分のことは自分で計画・実践する大人としての生活リズムが確立できるよう支援する。
- 社会の一員として、自分が生かせる目標を持ち、達成に向けてチャレンジできるよう、物心両面で支援する。

小学校

中学校

高等学校

社会・上級学校

向かっていく学力

- 実生活、地域・社会や将来との関わりを通して、学ぶ目的や意義を理解させ、学ぶ意欲を高める。
- 基礎・基本となる知識や技能の定着を図り、それらを活用して的確に課題を解決する能力を育む。
- 自らの進路を考えた、主体的・計画的な家庭学習ができるようにする。
- 学校図書館や情報機器等を活用し、情報を的確に読み取る力や主体的に活用できる力を育む。
- 様々な実体験の積み重ね(成功・失敗・挫折など)を通して、学び続けていく力の基盤となる集中力、持続力、柔軟性を育む。

広がっていく社会力

- 社会との積極的な関わりを通して、自分の特性、自分らしい生き方について考え、将来を想起する力を育む。
- 地域社会の実態に触れる機会を与え、地域と自分とのつながりや地域の課題等への関心を高める。
- 地域の教育資源を活用した学びを通して、ふるさとへの愛着や誇りを育む。
- 異なる文化や考え方への関心を高め、意欲的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育む。
- 職場体験やボランティア活動等を通して、勤労観・職業観を高め、助け合って生きる喜びを体感させる。

高まっていく人間力

- 自分の長所や欠点に気づき、自分らしさを発揮しようとする心を育む。
- 集団での関わりの中で、他者を尊重しながら役割を果たそうとする心を育む。
- 返事やあいさつ、時間や約束を守る等の、場や状況に応じたふるまいが意識的にできるようにする。
- 様々な活動・体験を通して、集団の中での役割や責任の存在を意識させ、人間関係を築く上で必要な力を体得させる。
- 互いの考えや立場を認め合い、協力して活動していこうとする態度を育てる。

向かっていく学力

- 学びの先にある社会を意識させ、進路実現に向かってチャレンジしていく意欲を高める。
- 実社会や自らの将来に役立つ、専門的な知識や技能、情報活用能力を育む。
- 進路実現に向かい、自発的で計画的な家庭学習ができるようにする。
- 読書を通して感性を磨き、読解力や表現力、想像力を高めるとともに、情報機器等も活用して情報を収集し的確に対応できる力を育む。

広がっていく社会力

- 社会との多様な関わりを通して、自分の特性を生かした社会貢献のあり方を具体的に想起させる。
- 他地域の実態や異文化に触れる機会を与え、多角的な視点でふるさとを捉えることで、ふるさとの魅力や課題に気付かせる。
- 自身の特性や生き方に応じたふるさとへの貢献のあり方を考えさせ、その意欲を高める。
- 多様な価値観を理解し、国際的な視野を持った行動、コミュニケーションができるようにする。
- インターンシップや企業見学、セミナー等を通して、地域社会や事業所等の求める人物像を意識させる。

高まっていく人間力

- 自分の長所を活かし、自信を持って社会に主体的に関わりようとする心を育む。
- 多様な関わりを通して、生命の尊さを感じ、他と共生しようとする心を育む。
- 挨拶や時間遵守等、社会で通用するマナーを身に付けさせ、場や状況に応じたふるまいが自発的にできるように育む。
- 各種の体験的活動を通して、社会に主体的に参画していくために必要な力や態度を育む。
- 人権が尊重される社会を実現しようとする意欲や実践力を育む。

家庭のかかわり・役割
地域の支援

就学前から高等学校までの連携・協働
学校・家庭・地域の連携・協働